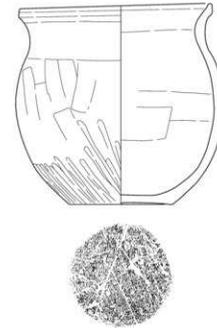


諏訪前遺跡

(第2地点)

— 産業廃棄物処理施設建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



2014

水戸市教育委員会
平和建設株式会社

諏訪前遺跡

(第2地点)

— 産業廃棄物処理施設建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2014

水戸市教育委員会
平和建設株式会社

ごあいさつ

水戸市是那珂川の流域に位置し、八溝山系の山並みと那珂川・千波湖の豊かな自然に囲まれています。私たちの祖先もこの豊かな環境のもと古くから生活を営んできました。

水戸市域の東部に位置する諏訪前遺跡是那珂川右岸の台地上に位置しています。本遺跡の周辺には、文献に残る最古の貝塚である国指定史跡「大串貝塚」や6世紀後半に築造された首長墓群とみられる北屋敷古墳群、奈良・平安時代に交通の要衝として機能した平津駅家の関連集落と考えられている堀内遺跡など、多くの重要遺跡が残されており、古くから政治・文化の中心地域のひとつとして繁栄してきたと考えられています。

埋蔵文化財は、開発等により一度破壊されてしまうと、二度と原状に復すことができないため、私たちひとりひとりが大切に保存しながら後世へと伝えていかなければならない貴重な財産です。本市教育委員会といたしましては、その意義や重要性を踏まえ、開発事業との調和を図りながら、文化財の保護・保存に努めているところです。

この度の発掘調査は、諏訪前遺跡において実施した二度目の本格的な発掘調査で、古墳時代終末期から奈良時代初頭頃に営まれた堅穴建物跡等が検出されました。諏訪前遺跡の第1次調査でも7世紀末から8世紀初頭頃の堅穴建物跡が1軒確認されていることから、同時期の集落の空間的広がりを窺い知ることができる貴重な成果が得られました。

ここに刊行する本書が、豊かな地域史の一端を復元することで貴重な文化財に対する保護・活用の意識の高揚や郷土愛の育成へと繋がることを願い、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

末尾ながら、今回の調査実施にあたり、多大なる御理解と御協力を賜りました近隣住民の皆様方、並びに種々の御指導・御助言を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます、ごあいさつといたします。

平成26年9月

水戸市教育委員会

教育長 本多清峰

例 言

- 1 本書は、水戸市に所在する諏訪前遺跡（第2地点）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は産業廃棄物中間処理施設建設工事に伴い、平和建設株式会社の委託を受け、水戸市教育委員会指導のもと、株式会社東京航業研究所が実施した。
- 3 調査の概要は下記の通りである。

所在地 水戸市大場町字小山443番地7、大場町字諏訪前452番地1

調査面積 175.5㎡

調査担当 岩崎岳彦（株式会社東京航業研究所 文化財調査課）

調査参加者 有田洋子、小山司農夫、河原井俊吉郎、皆川幸子

整理参加者 石割裕次郎、大川亜弓、菊池久美子、酒井成男、島田真紀子、富永義昭、
殿井貴代子、永田正博、野村果央、畠山真紀、平野由美子、村井建三

調査指導 水戸市教育委員会（教育長 本多 清峰）

- 4 本書の執筆・編集は、岩崎岳彦・米川暢敬（水戸市埋蔵文化財センター）が行った。

- 5 調査組織は下記の通りである。

本多 清峰 水戸市教育委員会教育長

事務局

中里誠志郎 水戸市教育委員会事務局教育次長

飯村 博史 同文化課埋蔵文化財センター所長

渥美 賢吾 同文化財主事

米川 暢敬 同文化財主事

太田有里乃 同埋蔵文化財専門員

鈴木 学 同埋蔵文化財専門員

昆 志徳 同埋蔵文化財専門員

丸山優香里 同埋蔵文化財専門員

大谷 純奈 同嘱託員（公開活用担当）

山戸 祐子 同嘱託員（庶務担当）

- 6 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々及び機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です。

茨城県教育庁文化課、平和建設株式会社

凡 例

- 1 本書に記している座標値は、世界測地系に基づく。挿図の内、平面図の方位記号は座標北を、土層堆積断面図の水準線高の数値は海拔標高をそれぞれ示す（単位：m）。
- 2 土層及び遺物の色調『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務所・財団法人日本色彩研究所色票監修 2002 年版）に準拠する。
- 3 遺構平面図及び土層堆積断面図の縮尺は、1/30、1/40、1/60 を基本とし、各図にスケールを明示した。
- 4 遺物実測図の縮尺は 1/3 で掲載し、各図にスケールを明示した。
- 5 遺物写真の縮尺は実測図と同じである。
- 6 遺物番号は、実測図、観察表、写真図版とも共通である。
- 7 挿表中における括弧付き数字については、（ ）内が推定値、〈 〉内が残存値・現存値を示す。
- 8 挿図中のスクリーントーンは以下に示す通りである。

遺構図		……………焼土		……………カマド		
遺物図		……………須恵器断面		……………黒色物		……………磨滅範囲
- 9 引用・参考文献は、一括して本文末に取めた。

目次

ごあいさつ

例言・凡例・目次

第1章 調査に至る経緯と経過	
1-1 調査に至る経緯	1
1-2 発掘作業の経過	1
1-3 整理等作業の経過	1
第2章 遺跡の周辺環境	2
2-1 地理的環境	3
2-2 歴史的環境	3
2-3 諏訪前遺跡における既住の調査	6
第3章 調査の方法と成果	7
3-1 調査の方法	7
3-2 基本層序	7
3-3 遺構	9
3-4 遺物	14
第4章 総括	17
引用・参考文献	17
写真図版	
報告書抄録	

挿図・表目次

第1図 諏訪前遺跡の位置	3
第2図 諏訪前遺跡の範囲と周辺遺跡の位置	4
第3図 諏訪前遺跡（第1地点）遺構配置図	6
第4図 基本層序柱状図	7
第5図 調査区の位置	8
第6図 調査区方眼図	9
第7図 1号竪穴建物跡	10
第8図 1号竪穴建物跡貼床	11
第9図 1号竪穴建物跡遺物出土状況	11
第10図 1号竪穴建物跡カマド	12
第11図 ビット	13
第12図 出土遺物（1）	14
第13図 出土遺物（2）	15
第1表 諏訪前遺跡と周辺遺跡一覧	5
第2表 出土遺物属性一覧	16
第3表 遺物集計表	16

図版目次

- 図版1 調査区全景（南より）
1号ピット完掘状況（東より）
2号ピット完掘状況（東より）
調査区を望む（南より）
- 図版2 1号竪穴建物跡完掘状況（南より）
1号竪穴建物跡遺物出土状況（1）（南より）
- 図版3 1号竪穴建物跡遺物出土状況（2）（南より）
1号竪穴建物跡遺物出土状況（3）（南より）
1号竪穴建物跡カマド完掘状況（南より）
1号竪穴建物跡土層断面（東より）
基本層序（東より）
基本層序（南より）
埋め戻し状況（南より）
作業風景（北より）
- 図版4 出土遺物

第1章 調査に至る経緯と経過

1-1 調査に至る経緯

平成24年5月22日付けで平和建設株式会社代表取締役 長谷川紀子（以下、事業者）から、水戸市教育委員会（以下、市教委）教育長あて、埋蔵文化財の取扱いについて照会文書が提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地「諏訪前遺跡」内に該当しており、工事着手の60日前までに文化財保護法第93条第1項に基づく届出を茨城県教育委員会教育長あて提出する必要があること、通知提出後に県教育委員会教育長から埋蔵文化財の取扱いについて通知があること、遺跡の発掘調査や現状保存を必要とする場合には、原因者の協力をお願いする旨回答した（平成24年6月19日付け教理第401号）。

その後、平成24年7月10日～11日と9月5日～6日の期間に、開発対象地内において試掘・確認調査を実施した（第1次調査及び第2次調査）。第2次調査では埋蔵文化財は確認されなかったが、第1次調査では古墳時代から奈良時代のものと考えられる土師器・須恵器の碎片が検出された。調査結果に基づき、原因者と保存について協議を重ねたが、計画変更等は困難であることから、原因者から提出のあった文化財保護法第93条第1項に基づく届出に、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が相当である旨、意見書を付して茨城県教育委員会（以下、県教委）教育長あて進達した（平成26年3月4日付け教理第172号）。

この届出に対し、県教委教育長から工事着手前に発掘調査を実施すること、調査の結果、重要な遺構が確認された場合には、その保存について別途協議する旨の指示・勧告があった（平成26年3月7日付け文第2761号）。これを受けて、事業者は株式会社東京航業研究所（以下、「受託業者」という）と発掘調査業務の委託契約を締結し、この契約に基づき、受託業者から平成26年4月9日付けで法第92条第一項に規定する「埋蔵文化財発掘調査の届出」が提出された。本発掘調査はこの届に基づき、平成26年6月10日から平成26年6月30日まで、市教委の指導・助言の下、実施することとなった。（米川）

1-2 発掘作業の経過

発掘調査は、平成26年6月10日から6月30日までの約3週間に渡って実施した。調査経過の概略は以下の通りである。

6月10日より重機を用いて表土除去作業及び遺構確認作業を開始した。調査区内は木根が多く確認作業は難航した。6月13日遺構確認作業を終了、第1号竪穴建物跡の調査に取り掛かる。6月17日、遺構確認面から20cmほどの地点において覆土が硬化している面を確認。範囲が広範に渡ることから、これを床面として調査を進める。6月17日土層の観察を行った後、カマドの調査に移る。6月25日カマド内火床面を確認。現況床面50cm以上下面に存在することから、床面をさらに掘り下げる。6月28日、ロームが平坦に硬化した面を確認。床面と認定し、調査を継続する。6月29日、竪穴建物跡を完掘。掘り方の調査に移行。掘り方は浅く、竪穴建物の四隅がやや掘り込まれるのみであった。6月30日、市教育委員会の立ち合いの後、全ての調査を終了。埋め戻し作業を行い、機材の撤収をもって全ての調査を終了した。（岩崎）

1-3 整理作業の経過

整理作業は、平成26年7月1日より平成26年8月30日に渡って実施した。7月1日より7月17日には遺物の洗浄、注記、接合作業および写真整理作業と並んで、写真測量した遺構の図化作業をS T P（デジタル図化解析機）を用いて行った。

7月18日より8月20日には遺構図面の修正・トレース、遺物の実測・トレース、遺物写真の撮影、図版作成、原稿執筆などの作業を行い、8月21日より9月23日にかけて報告書編集作業を実施した。

(岩崎)

第2章 遺跡の周辺環境

2-1 地理的環境

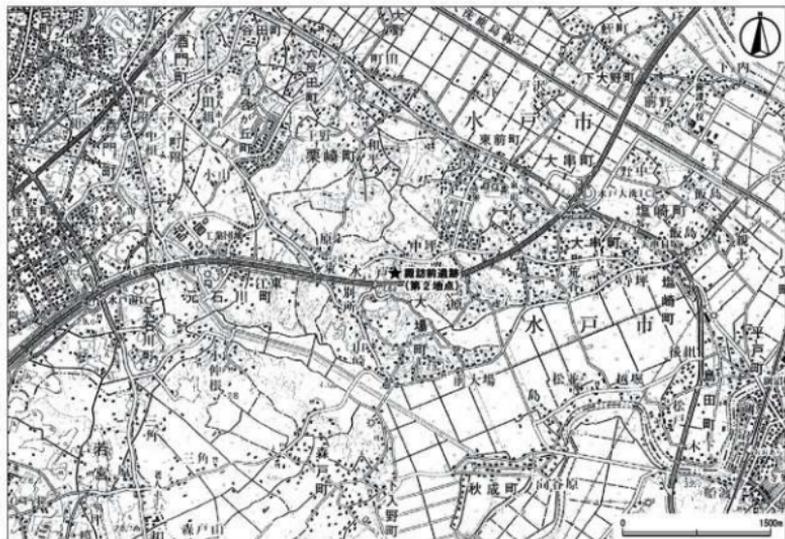
諏訪前遺跡第2地点は水戸市大場町字小山 443 番地 7、大場町字諏訪前 452 番地 1 に位置する、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の複合遺跡である。遺跡は沼沼川に流れ込む支流の一つである石川右岸に位置し「東茨城台地」と呼ばれる洪積台地上に位置する。諏訪前遺跡の東には、国指定史跡である大串貝塚と大串遺跡、北屋敷遺跡。北に上平遺跡、薄内遺跡、南西には元石川大谷原遺跡、小仲根遺跡など先土器時代から近世に至るまでの多数の遺跡が八つ手状の台地縁辺部に沿って分布し、水戸市内でも有数の遺跡密集地帯であり、諏訪前遺跡もその一角をなしている。当該地点南側には、現在、東水戸道路が横切っているものの、針葉樹の森に覆われた八つ手状の谷は古来の面影を色濃く残している。

2-2 歴史的環境

本節では諏訪前遺跡周辺の本調査地点出土遺物の時期から概観する。

本調査地点からは田戸下層式と見られる縄文早期及び中期加曾利E式の土器片、7世紀後葉から8世紀前葉にかけての土師器、須恵器が出土した。

縄文早期としては、薬王院東遺跡の平成元年の調査で遺構外からではあるが田戸下層式土器が出土している。また大鋸町遺跡からは、熱糸文系の早期の土器が、町付遺跡からは沈線文系の土器が確認



第1図 諏訪前遺跡の位置 (国土地理院発行1:50,000「ひたちなか・水戸・石岡・磯浜」に加筆)



第2図 調査前遺跡の範囲と周辺遺跡の位置

(国土地理院発行 1:25,000「那珂湊・碓氷」に加筆 包蔵地は「元石川大谷原遺跡」を参照)

第1表 諏訪前遺跡と周辺遺跡一覧

No	遺跡名	種別	所在地	時代・時期
001	谷田貝塚	貝塚	谷田町下ノ内	縄文(前)
002	谷田遺跡	集落跡	谷田町下ノ内	縄文(前～晩)、古墳(後)
003	埴坪遺跡	集落跡	酒田町埴坪	弥生(後)、奈良、平安
006	下畑遺跡	集落跡	元石川町下畑	縄文(中～後)、古墳(後)
006	元石川町権現台遺跡	集落跡	元石川町権現台	弥生、古墳
009	谷田古墳群	古墳群	酒田町台外	古墳
071	江東古墳群	古墳群	元石川町江東外	古墳
140	兼越沢遺跡	集落跡	元石川町兼越沢	縄文(後)、古墳
141	兼沢遺跡	集落跡	元石川町兼沢	縄文(中～後)、奈良、平安
143	中大野遺跡	集落跡	中大野町宇架之内	弥生(後)、古墳(前)
175	大車貝塚	貝塚	塩崎町 10152 外	縄文(前、後)
176	大車遺跡	集落跡、官衙跡、火葬場	塩崎町 1016 外	縄文(早期、前、後)、古墳、奈良、平安
177	森戸遺跡	集落跡	森戸町塩	先土器
178	向山遺跡	集落跡	大車町向山	縄文(前)、古墳、奈良、平安
179	東前遺跡	集落跡	東前町道深沢	縄文、古墳(前)
180	芳賀遺跡	集落跡	聖崎町宿	奈良、平安
181	六地藏寺遺跡	集落跡	六反田町 818 外	弥生(後)、古墳(後)、奈良、平安
182	西谷津遺跡	集落跡	六反田町西谷津	古墳、奈良、平安
183	小原遺跡	集落跡	東前町尾	弥生(後)、古墳、奈良、平安
184	新地遺跡	集落跡	六反田町新地	古墳(前～中)、奈良、平安
185	溝内遺跡	集落跡	六反田町溝内	先土器、縄文(早～後)、弥生(前～後)、古墳(前、後)、奈良、平安、近世
186	金山塚古墳群	古墳群	大車町里	古墳(後～終)
187	大車古墳群	古墳群	大車町山廻 2251	古墳(後～終)
188	聖崎北古墳	古墳	聖崎町北 1751	古墳(後～終)
189	愛宕神社古墳	古墳	聖崎町上平	古墳(後～終?)
190	六地藏寺古墳	古墳	六反田町溝内	弥生、古墳(後)
191	小山古墳群	古墳群	大畑町小山西	古墳(後～終?)
192	森戸古墳群	古墳群	森戸町大六天外	先土器、縄文(早～後)、古墳(前、後～終)
193	上平遺跡	集落跡	聖崎町上平	古墳、奈良、平安
194	長福寺古墳群	古墳群	塩崎町寺前	古墳(後～終?)
195	龍沼寺古墳群	古墳群	大畑町泉久保	古墳(後～終?)
196	下入野古墳群	古墳群	下入野町富士山	古墳(後～終)
197	善徳寺古墳	古墳	大車町神道 2301	古墳(後～終?)
198	下入野古墳群	古墳群	下入野町水北外	古墳(後～終?)
201	楊山館跡	城館跡	東前町金山外	中世
202	和平館跡	城館跡	聖崎町上平	中世
203	六反田町古遺跡	集落跡	六反田町直 1334 外	古墳(前～中)
205	町付遺跡	集落跡	酒田町町付	古墳(前)、奈良、平安
206	神通り貝塚	貝塚	谷田町下ノ内	縄文(前)
207	下ノ内遺跡	集落跡	谷田町下ノ内	縄文(晩)
209	中ノ内遺跡	集落跡	坪大野町大神臨	先土器、縄文土器(早～後)、奈良、平安
240	小仲根権現古墳	古墳	元石川町中ノ新 942 外	古墳(後～終?)
241	小仲根遺跡	集落跡	元石川町小仲根	縄文(中)、古墳(後)、平安
242	高原古墳群	古墳群	元石川町小仲根	奈良、平安、近世
243	小山遺跡	集落跡	大畑町高原、狐塚	縄文(中～後)
244	諏訪前遺跡	集落跡	大畑町仲里、天神	縄文、古墳、奈良、平安
245	沢崎遺跡	集落跡	大畑町諏訪前 455 外	縄文、奈良、平安
246	観内遺跡	集落跡	大畑町沢崎 906 外 大車町観内	先土器、古墳(後)、奈良、平安 古墳(後)、奈良、平安、近世
247	高原遺跡	集落跡	大車町高原、後原	縄文、弥生(後)、古墳、奈良、平安、中世、近世
248	北畑敷遺跡	集落跡	大車町北畑敷 7441 外	縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世
249	北畑敷古墳群	古墳群	大車町北畑敷 7741 外	縄文(早～中)、弥生(後)、古墳(中～後)、奈良、平安、中世、近世
250	六反田古墳群	古墳群	百合ヶ丘町	古墳
251	伊豆屋敷跡	城館跡	聖崎町宿	古墳(後)、奈良、平安、中世
252	上野遺跡	集落跡	聖崎町上野	奈良、平安
253	弘徳寺古墳	古墳	聖崎町上野 1985	古墳(後～終?)
254	フジヤマ古墳	古墳	聖崎町新庄 1612	古墳(後～終?)
255	藤元遺跡	集落跡	聖崎町藤元	古墳
256	諏訪神社古墳	古墳	聖崎町諏訪下	古墳(後～終?)
257	千佛神社古墳	古墳	聖崎町打越 2398	古墳(後～終?)
258	打越遺跡	集落跡	聖崎町打越	奈良、平安
259	東前原遺跡	集落跡	東前町原	古墳、奈良、平安
260	住吉神社古墳	古墳	東前町金山	古墳(後～終?)
261	大車原館跡	城館跡	大車町原	中世
262	大車原遺跡	集落跡	大車町原	縄文(前)、奈良、平安
263	宮原遺跡	集落跡	大車町宮原	奈良、平安
264	東畑古墳	古墳	大車町東畑	古墳
267	天神山古墳	古墳	大畑町天神山	弥生(後)、古墳(前)
268	久保山館跡	城館跡	森戸町久保山、埴	中世
269	フノ崎遺跡	集落跡	下入野町フノ崎	古墳、奈良、平安
270	下入野富士山遺跡	集落跡	下入野町富士山	古墳、平安
279	西谷津遺跡	集落跡	六反田町西	先土器、縄文、弥生、古墳、奈良、平安
280	龍沼川床遺跡	包蔵地	平戸町	縄文(早～晩)、弥生(中)、近世
289	元石川町大谷原遺跡	集落跡	元石川町大谷原	先土器、縄文(早、後～晩)、古(後)、奈良、平安、近世

(井上、藤沼、仁平、根本 1999) に加筆、改変

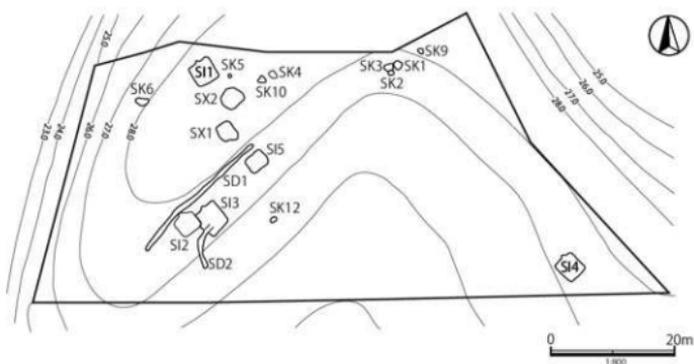
されているが、諏訪前遺跡から4km以上とやや距離があり直接的な関係は薄いと思われる。近傍では、南西、谷津を隔てて所在する森戸古墳群では遺構外から早期貝殻条痕文系土器が出土している。縄文中期としては前述の薬王院東遺跡の他、雁沢遺跡、薄内遺跡、小仲根遺跡、下畑遺跡などで確認されている。今回の調査では33点の縄文土器の出土を見たが、これに伴う遺構は確認されず、上述の遺跡に関連する可能性もあるが、不明であると言わざるを得ない。

7世紀後葉から8世紀前葉については、概ね奈良時代に相当するものとして周辺遺跡を概観したい。諏訪前遺跡近隣における奈良時代の遺跡としては、大鍋町遺跡、薬王院東遺跡、町付遺跡、中ノ割遺跡、小仲根遺跡、東組遺跡、道西遺跡、大串遺跡、梶内遺跡、沢幡遺跡等が挙げられる。このうち、今回の調査地点と同時期の物としては梶内遺跡や大串遺跡にその例を見ることができる。本地点と同じ台地上に位置しており注意される。

今回の調査範囲は狭小であり、また諏訪前遺跡自体の調査もあまり進展していないことから、その性格を解明することは困難であるが、諏訪前遺跡を含め複数の遺跡が当地地縁上に密集している状況から、長期間にわたる、人々の活発な活動の痕跡が伺えるのではないだろうか。(岩崎)

2-3 諏訪前遺跡における既往の調査

諏訪前遺跡で最初に発掘調査が行われたのは、北関東自動車道東水戸道路敷設に伴い、平成2(1990)年～平成3(1991)年にかけて財団法人茨城県教育財団により実施された第1地点の発掘調査である。同調査では、奈良・平安時代の堅穴建物跡5軒、堅穴遺構2基、土坑10基(うち1基は古墳時代中期か)、近世以降とみられる溝2条が検出された。奈良・平安時代の堅穴建物跡は、出土遺物や主軸方位等から7世紀末～8世紀前葉、8世紀後葉、9世紀前葉に細分され、土師器や須恵器等が出土している。注目される遺物としては、9世紀前葉に帰属する第2号堅穴建物から出土した鉄鏝が挙げられる。(米川)



第3図 諏訪前遺跡(第1地点)遺構配置図(1:800)
(梶山1993の第36図をデジタルトレース)

第3章 調査の方法と成果

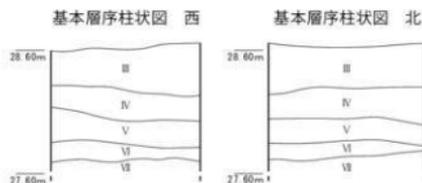
3-1 調査の方法

調査区の座標は公共座標を基準に設定した。調査にあたっては重機を用いて表土を除去した後、主として人力で遺構確認面までの掘り下げを行った。遺構内出土遺物については、原則として光波測量機を用いて3次元記録を実施した。また、遺構についてはデジタルカメラによる写真測量と手実測作業を併用した。また、写真撮影にあたっては35mmモノクロフィルム、35mmカラーリバーサルフィルム、デジタルカメラ（1280万画素）を併用し、適宜、撮影を行った。

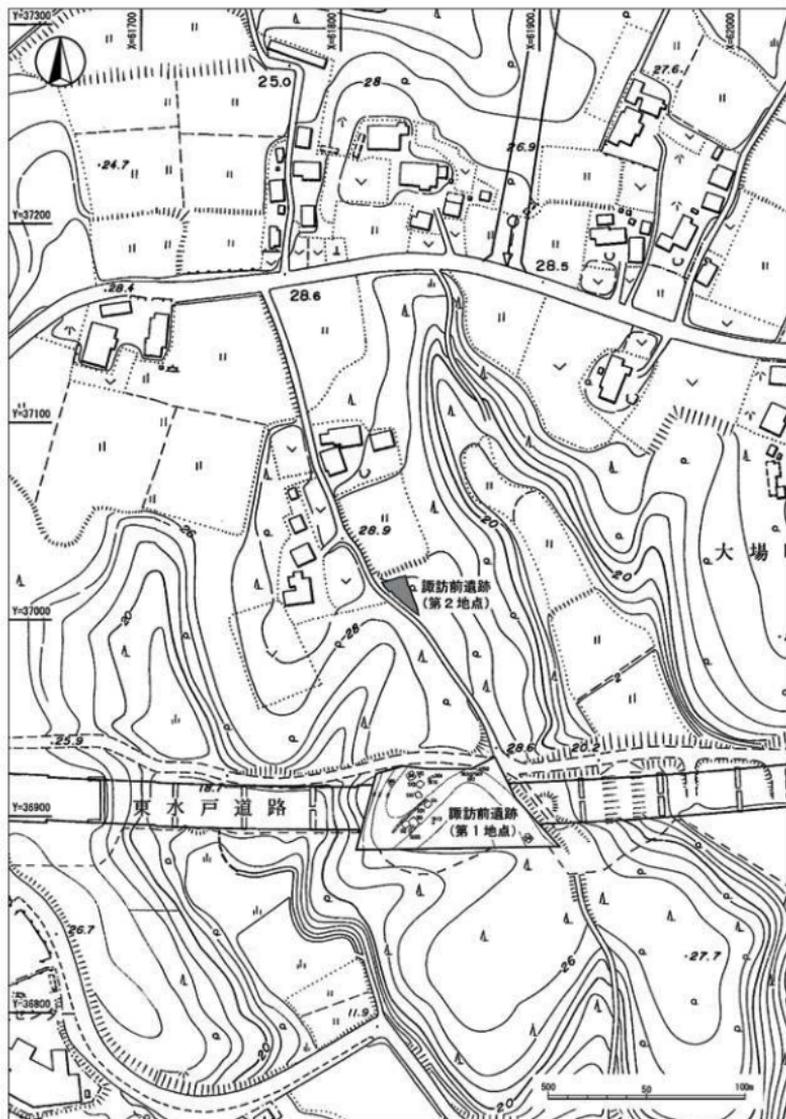
3-2 基本層序

調査区北西部に基本層序観察用のトレンチを1.3×1.3m幅で設定、北壁と西壁の2面において観察を行った。基本層序の概要は以下の通りである。また土層は南北方向では下降する向きが見られ、現地形と概ね合致している。

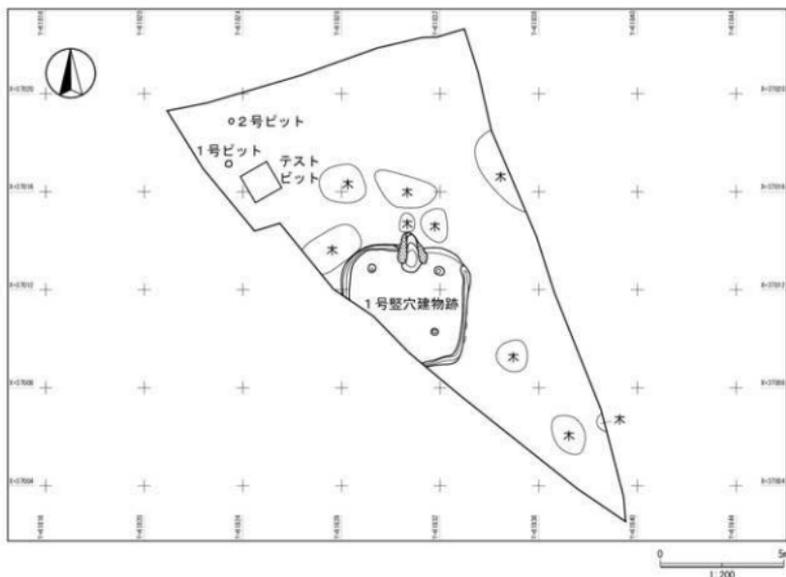
- | | | |
|---|-----------------|-------------------------------|
| Ⅲ | 7.5YR6/8 橙色土 | ローム土。黑色粒、赤色粒微量混入。粘性を持ち、ややしまる。 |
| Ⅳ | 7.5YR5/6 明褐色土 | ローム土。黑色粒、赤色粒微量混入。粘性を持ち、しまる。 |
| Ⅴ | 7.5YR5/4 にぶい褐色土 | ローム土。黑色粒、赤色粒微量混入。粘性を欠くが、しまる。 |
| Ⅵ | 10YR5/6 黄褐色土 | ローム土鹿沼土を多量に含む（混在層）。粘性を持ち、しまる。 |
| Ⅶ | 10YR7/6 黄橙色土 | 鹿沼軽石純層 粘性を欠くが、しまる。 |



第4図 基本層序柱状図（1：40）



第5図 調査区的位置 (1:2,500)



第6図 調査区方眼図(1:200)

3-3 遺構

調査は南北約21m、東西約12mの三角形の敷地の範囲とし実施した。調査区は八つ手状の台地の上に位置し、東と南は谷に面する。

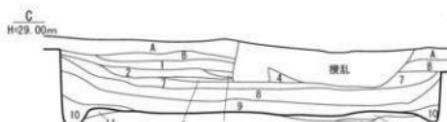
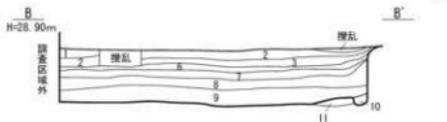
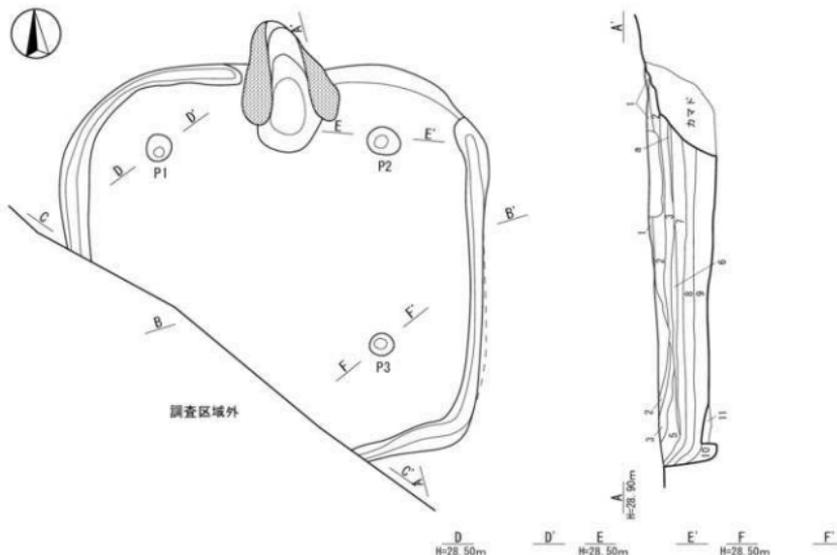
今回の調査では竪穴建物跡1軒とピット2基が検出された。

1号竪穴建物跡(第6～9図、図版2・3)

建物跡は調査区の中央部に位置し、南西角部を調査区外に有する。遺構平面形状は南北軸長5.35m、東西軸長5.20mの方形を呈し、軸方向N-6°-Eで、ほぼ南北方向と一致する。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、床面から遺構確認面までの高さは0.67mを測る。壁の直下には周溝がほぼ全周するが、カマドの直前で途切れている。カマドは北壁に位置し、中心軸よりやや東寄りに配置される。カマドの軸は建物の中心軸に比しやや斜行していた。カマド煙道部は急な立ち上りをみせ、奥行きは浅い。床面はほぼ平坦でロームに直接構築されていた。残存状況は植栽痕などによりやや破壊されているものの概ね良好であった。

柱穴は3基のピットが確認されており、それぞれ建物跡の隅に近い位置に配置される。残りの1基については調査区外にあるものと思われ、上屋は4本柱穴によるものと推測される。入口施設、貯蔵穴等は確認されなかった。掘り方は建物の四つ角部が掘り込まれる形状であった。

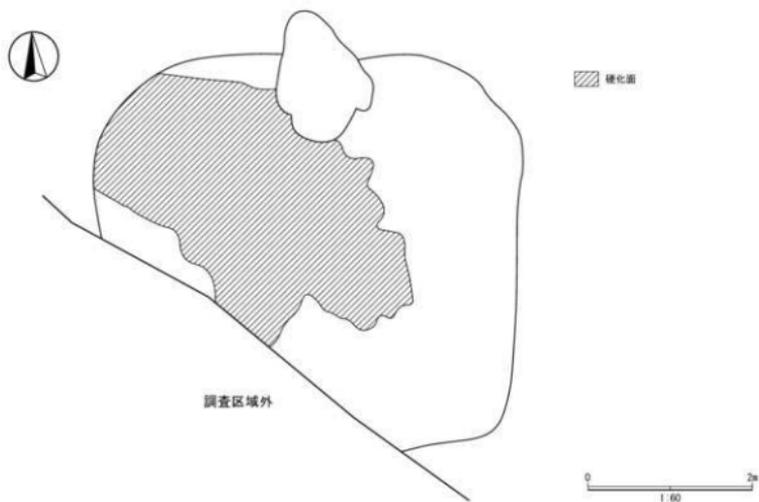
また、やや注意を引く点としては、覆土中、確認面から0.18mの地点で硬く締まった貼床状の層



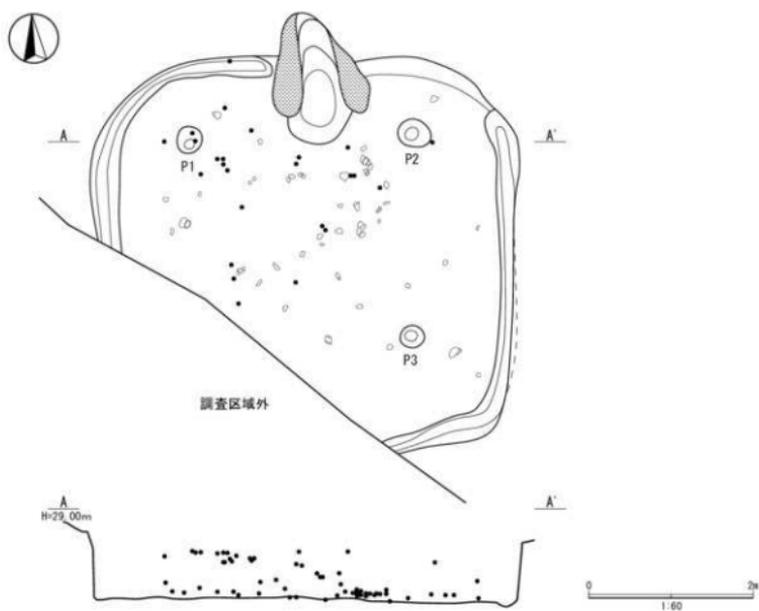
S101

- | | | |
|----|--------------|---|
| A | 10YR3/4 暗褐色土 | 表土層。木炭、植物根が多量混入。しまり、粘性を欠く。 |
| B | 10YR4/4 棕色土 | 表土下層。炭化物(φ2-3mm)微量混入。粘性をやや増し、ややしめる。 |
| 1 | 10YR3/3 暗褐色土 | ローム粒、焼土粒(φ1mm以下)微量混入。粘性をやや中に増し、しめる。 |
| 2 | 10YR3/4 暗褐色土 | ロームを隙に含む、ローム粒、炭化物、焼土粒、焼土ブロック(φ5mm)微量混入。粘性を持ち、しめる。 |
| 3 | 10YR3/3 暗褐色土 | ローム粒、炭化物、焼土粒、焼土ブロック(φ5mm)微量混入。粘性に欠けるが、しめる。 |
| 4 | 10YR4/4 棕色土 | ローム土体、焼土粒微量、ロームブロック多量混入。粘性を持ち、しめる。 |
| 5 | 10YR4/4 棕色土 | ローム土体。粘性を持ち、ややしめる。 |
| 6 | 10YR3/2 黒褐色土 | ローム粒、ロームブロック(φ5mm)、焼土粒、焼土ブロック(φ5mm)、炭化粒少量混入。粘性を持ち、しめる。 ※炭化物は7層とほぼ同じだが、軽くなる。 |
| 7 | 10YR3/2 黒褐色土 | ローム粒、ロームブロック(φ5mm)、焼土粒、焼土ブロック(φ5mm)、炭化粒少量混入。粘性をやや増し、ややしめる。 |
| 8 | 10YR3/3 暗褐色土 | ローム粒、ロームブロック(φ3-4mm)、焼土ブロック(φ2-3mm)、炭化物(φ2-5mm)少量混入。粘性を持ち、しめる。 |
| 9 | 10YR3/4 暗褐色土 | ローム粒、ロームブロック(φ3-4mm)、炭化物(φ5-10mm)少量混入。粘性を持ち、ややしめる。 |
| 10 | 10YR2/3 黒褐色土 | ローム土体、ロームブロック(φ3-5mm)少量混入。粘性を持ち、ややしめる。 |
| 11 | 10YR3/3 暗褐色土 | ローム粒少量、焼土粒、炭化物(φ3-45mm)微量混入。粘性を持ち、しめる。 |
| 12 | 5YR3/4 暗赤褐色土 | 焼土粒、炭化物(φ2-3mm)少量混入。粘性をやや増し、しめる。 ※焼土による酸化にちじるしい。 |

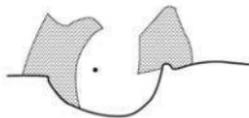
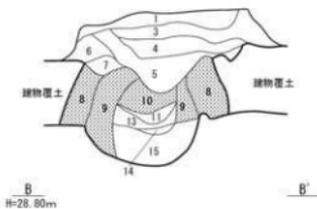
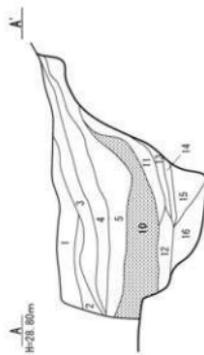
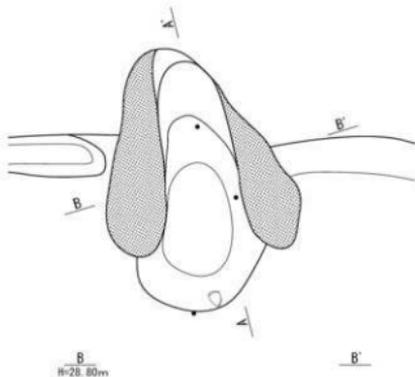
第7図 1号竪穴建物跡(1:60)



第 8 図 1号竪穴建物跡貼床 (1:60)



第 9 図 1号竪穴建物跡遺物出土状況 (1:60)



S101 カマド

- | | |
|---|--|
| <p>1 10YR3/2 赤褐色土
 2 10YR3/4 暗褐色土
 3 7.5YR3/4 暗褐色土
 4 7.5YR3/3 暗褐色土
 5 7.5YR3/2 赤褐色土
 6 7.5YR3/1 赤褐色土
 7 7.5YR3/3 暗褐色土
 8 10YR5/4 に近い黄褐色土
 9 7.5YR4/3 褐色土
 10 7.5YR4/3 褐色土
 (カマド天井部崩落土)</p> | <p>ローム粒、炭化粒、焼土粒微量混入、僅かに粘性を持ち、しめる。
 ローム粒、焼土粒、焼土ブロック (φ3mm) 微量、炭化粒微量混入、粘性を持ち、しめる。 少量のロームを混入含む。
 ローム粒、砂粒少量、炭化粒、焼土粒微量混入、やや粘性を持ち、しめる。
 ローム粒、炭化粒、焼土粒微量混入、やや粘性を持ち、しめる。
 ローム粒、炭化物 (φ3-4mm) 焼土粒少量、焼土ブロック (φ3-4mm) 微量混入、やや粘性を持ち、しめる。
 ローム粒、ロームブロック (φ10mm)、炭化粒、焼土粒少量混入、やや粘性を持ち、しめる。
 ローム粒、炭化粒、焼土粒微量、混入、粘性を持ち、しめる。
 ローム粒、炭化粒、焼土粒微量、混入、粘性を持ち、しめる。
 粘土を主体とし、焼土ブロック (φ2-3mm)、炭化物 (φ2-3mm)、焼土ブロック (φ2-3mm) 微量混入、粘性を持ち、しめる。
 粘土を主体、炭化物 (φ2-3mm) やや多量に混入、粘性を持ち、ややしめる。 ※熱を受ける。
 ローム粒、焼土ブロック (φ3-4mm) 微量、砂粒やや多量混入、粘性を持ち、しめる。 ※粘性が弱に強く硬化しているらしい。
 焼土を主体、焼土ブロック (φ0.5-10mm) 少量、炭化粒 (φ1-2mm) 微量、僅かに粘性を持ち、しまりを欠く。
 ローム粒、ロームブロック (φ3-5mm)、炭化物 (φ3-5mm)、焼土粒微量、焼土ブロック (φ3-5mm) 混入、粘性を持ち、しめる。
 焼土を主体、焼土粒少量、炭化粒微量混入、やや粘性を持ち、しめる。
 焼土を主体、よく熱を受けている (穴状面)、粘性を欠き、ややしめる。
 ロームブロック (φ3-5mm)、砂粒多量、焼土粒、炭化粒少量混入、粘性を持ち、ややしめる。 ※やや熱を受ける。
 ロームブロック (φ3-5mm) やや多量、やや粘性を持ち、ややしめる。 ※やや熱を受ける。</p> |
|---|--|

第 10 図 1号竪穴建物跡カマド (1:30)

が確認されており、建物跡北西側の大半に広がりを見せている。切り合いや重複・建替等は確認されず、その性格は不明である。また覆土内の内容物等の組成は直下の層と概ね同一であった。

竪穴建物跡出土遺物は須恵器、土師器を中心として748点、12,815.9gであった。床面直下からは新治窯跡群産とみられる須恵器の蓋が出土しており、その技術的、形態的特徴から7世紀第4四半期の所産と考えられるが、他の遺物は概ね8世紀第1四半期に属しており、建物の廃絶はこの期間中に起こったと推測される。

ピット (第10図, 図版1)

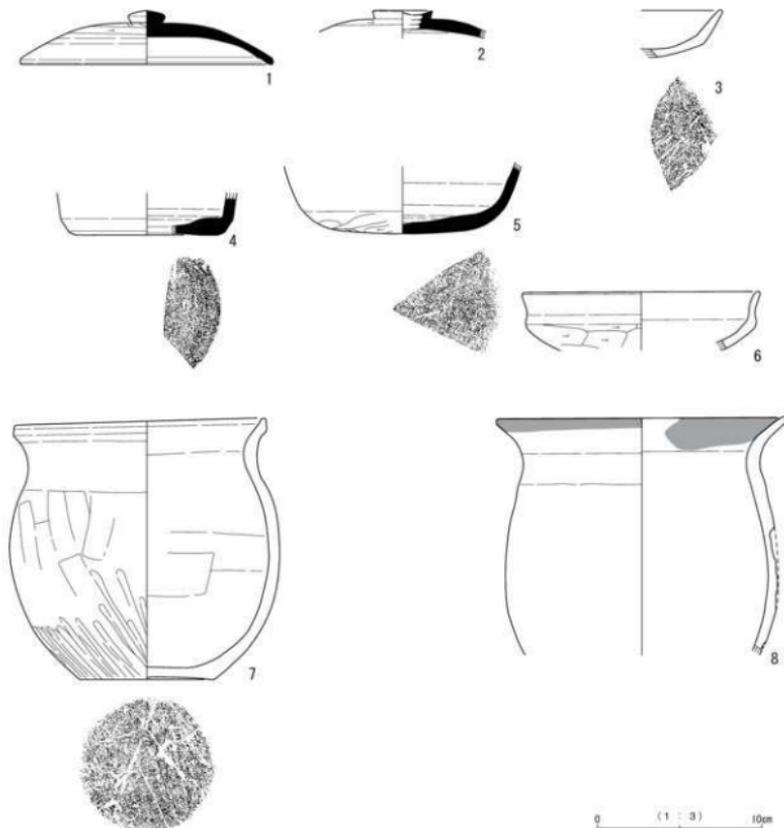
2基が確認された。遺跡の現況が竹を含む山林であり、規則性や遺物の出土も見られないことから、植栽痕の可能性も高いと思われるが、形状からピットに分類した。よって時期は不明である。



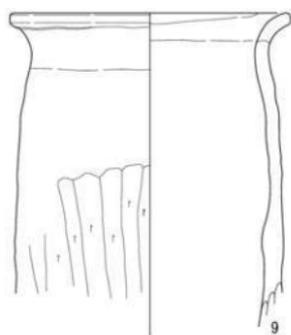
第11図 ピット (1:40)

3-4 遺物 (第11~12図, 第2・3表, 図版4)

今回の調査地点からは7世紀末から8世紀前葉の須恵器、土師器、鉄製品などが遺物収納箱にして3箱分、817点、13,913.5gが出土した。この内、竪穴建物内からは748点、12,815.9gが出土した。各器形、器種に拠る点数、重量は後述の一覧(第3表)に譲るが、主体となるのは土師器甕であり、重量換算で竪穴建物内出土遺物中49.5%を占めた。須恵器類に関しては、顕著とは言えないまでも一定量が確認されており、遺構の性格を知る上で重要と思われる。また表土、及び流れ込みによると思われる竪穴建物覆土中からは、砂岩製の分銅型打製石斧、加曾利E式土器、縄文早期に属すると思われる沈線文系の土器片が出土しており、周辺遺跡との関連性が注意される。



第12図 出土遺物(1)



9



10



11



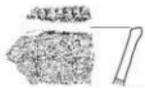
12



13



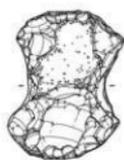
14



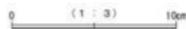
15



16



17



第13図 出土遺物(2)

第2表 出土遺物観察表

図録番号	出土地点	種別	素材	部位	残存率 (%)	口径(測定口径)(mm)	底径(測定口径)(mm)	高さ(残存高)(mm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	S01	磁器器	蓋	完整	100	(15.2)	-	3.3	輪部貼付け。管から横状のかまよりを得ず。天部底部円形凹ナデ。口ロ成底天舟部外面回転ヘラケズリ。	白色粒・チャート・石英・緑泥母・長石粒	良好	10YR7/3 にぶい黄褐色	新山次郎群器。7C第3四半期。
2	S01	磁器器	蓋	輪部-天舟部	20	-	-	(1.6)	輪部貼付け。口ロ成底天舟部外面回転ヘラケズリ。	白色粒	良好	10YR7/2 にぶい黄褐色	内外面に黒色薄染物付着。
3	S01	磁器器	杯	口縁部-底部	30	-	-	(2.2)	口縁部内外面回転ナデ。底部外面手持ちヘラケズリ(多方向)。内外面黒染。	白色粒・緑泥母	良好	10YR6/2 灰黄褐色	新山次郎群器。8C第1四半期。
4	S01	磁器器	杯	外部-底部	10	-	(9.6)	(2.5)	体部内外面回転ナデ。体部下端-底部回転ヘラケズリ。	白色粒・緑泥母・白色針状物	良好	10YR6/2 灰黄褐色	本集下巻群器。体部外面-底部に黒色薄染物付着。8C第1-2四半期。
5	S01	磁器器	杯	口縁部-底部	30	-	(10.0)	(4.0)	口縁部は直立気味に立ち上がった長外立。体部内外面回転ナデ。体部下端-底部ヘラケズリ。	白色粒・石英・緑泥母・白色針状物	良好	10YR6-1 灰白色	内外面に黒色薄染物付着。
6	S01	土師器	杯	口縁部-底部	40	(14.0)	-	(3.5)	口縁部直立気味。口縁内外面コナデ。体部外面ヘラケズリ。	白色粒・赤色粒・白色針状物	良好	7.5YR6/6 淡黄褐色	内外面に黒色薄染物付着。
7	S01	土師器	甕	口縁部-底部	70	15.2	8.1	16.0	口縁部-胴部内外面コナデ。胴部高平にミヤキを加える。底部外面に本巻。	白色粒・黒色粒・石英・緑泥母	不良	10YR7/4 淡黄褐色	新山次郎群器。8C第1四半期。
8	S01	土師器	甕	口縁部-胴部	40	17.3	-	(14.4)	口縁部内外面に黒染。口縁部-胴部コナデ。	白色粒・石英・緑泥母・赤色粒	良好	5YR5/8 暗黄褐色	黒色薄染物が見られる。
9	S01	土師器	甕	口縁部-胴部	15	(17.9)	-	(19.1)	口縁部内外立。口縁部は直線を描きず。口縁部内外面コナデ。胴部外面下側に下-上方向のヘラケズリ。胴部内面は縦線が多い。	白色粒・黒色粒・石英・緑泥母	良好	10R8/4 淡黄褐色	8C第1四半期。
10	S01	鉄製品	刀子		40	縦1.3	横(4.7)	厚0.2	全面を錆により覆われている。	-	-	-	-
11	S01	縄文土器	深鉢	胴部	断片	-	-	(3.8)	竹管状工具により右から左に施す。その下段には沈線が3本集束する。内面は丁寧なナデ。	白色粒・石英・緑泥母	良好	10YR6/6 黄褐色	黒色薄染物が見られる。12とは製器体だが、同グループと思われる。田江下層。
12	S01	縄文土器	深鉢	口縁部	断片	-	-	(3.0)	口縁部竹管状工具により左から右に施す。	白色粒・石英・緑泥母	不良	10YR7/4 にぶい黄褐色	黒色薄染物が見られる。11とは製器体だが、同グループと思われる。田江下層。
13	S01	縄文土器	深鉢	胴部	断片	-	-	(3.0)	横状の沈線と刺突文。	白色粒・チャート・緑泥母	良好	10YR7/6 明黄褐色	田江下層
14	表土	磁器器	高台付杯	外部-底部	30	-	(17.4)	(1.9)	口ロ成底。底部回転ヘラケズリ。貼付高台。	白色粒・緑泥母	良好	10YR7/2 にぶい黄褐色	新山次郎群器?内外面に黒色薄染物付着。
15	表土	縄文土器	深鉢	口縁部	断片	-	-	(3.5)	口縁部内外面コナデ。口縁部に縦状沈線。	白色粒・緑泥母	良好	10YR6/4 淡黄褐色	口縁部外面に黒色薄染物付着。田江下層。
16	表土	縄文土器	深鉢	胴部	断片	-	-	(8.0)	単面凹。横状を地紋とし。帯帯で区画する。底部貼は筋り筋す。	白色粒・石英・チャート・長石・緑泥母	良好	10YR6/4 にぶい黄褐色	加賀野瓦器
17	表土	石製品	分銅型打習石斧		縦9.0	横6.8	厚2.3		真裏面中央に指痕。刃部は摩耗が激しい。表面に広く自然面を残す。	-	-	-	砂岩

第3表 遺物集計表

種別	出土地点	1号製穴種物群		溝橋群		合計		
		点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	
内瀬時代-奈良時代	縄文土器	深鉢	31	451.3	2	31.1	33	482.4
		石器	24	2,204.4	1	172.7	25	2,377.1
	土師器	甕	578	6,285.1	51	438.3	629	6,723.4
		杯	47	379.2	2	59.5	49	438.7
		甕	24	496.4			24	496.4
		台付甕	3	56.7			3	56.7
		甕	5	21.5	1	3.2	6	24.7
		高台付杯						
		高型						
		甕	8	182.4	5	104.8	13	287.2
	磁器器	杯	16	263.8	3	172.2	19	436.0
		甕						
		台付甕	5	175.3	1	4.8	6	180.1
		高台付杯			2	30.7	2	30.7
高型		1	80.3	1	80.3	2	80.3	
甕		1	4.1			1	4.1	
石製品	磨	2	1,728.2			2	1,728.2	
	磨	2	91.3			2	91.3	
時期不明	鉄製品	2	476.2			2	476.2	
	石製品	2	476.2			2	476.2	
合計		748	12,815.9	69	1,097.6	817	13,913.5	

第4章 総括

本遺跡は東茨城台地上、八つ手状谷の突端部に位置し、現状は針葉樹林に覆われた山林である。調査区南側には東水戸道路の高架が横走しているものの、深い森に覆われた地形は、古代から変わらぬ風情を今も残している。

今回の調査では1軒の堅穴建物跡と2基のピットが確認されたが、堅穴建物跡については確認面からの覆土の堆積が66.8cmと厚く、遺構の残存状況は概ね良好であった。遺物の組成を見れば、土師器甕類が総出土遺物中の48.7%を占め、以下は僅少ではあるが、須恵器坏類が3.4%、土師器坏類が3.6%で続く。また、須恵器蓋も複数個体確認されている。器種組成から遺構の性格を知るには出土遺物が少なく、復元しえない破片資料も多いことから、やや困難ではある。現在の立地などを考慮し、さらに想像を逞くして炭焼き小屋といった、集落から独立、または集落の外縁部に位置する建築物ではないかと思いたいが、今回調査を実施した範囲内だけでは、その性格を十分に解き明かすことはできない。今後周辺の調査が進展し、当該地の性格がより明確になることを期待したい。(岩崎)

引用・参考文献

- 帆山雅彦 1993 「一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ中ノ瀬遺跡・小山遺跡・諏訪前遺跡・高原古墳群・沢橋遺跡・高原遺跡・北屋敷遺跡」財団法人茨城県教育財団
- 佐々木義則 1995 「木葉下窓跡群環AⅠの変化について－消費地における形態と調整技法の様相－」『要良岐考古』第17号 要良岐考古同人会
- 櫻村宣行 1995 「一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ梶内遺跡」財団法人茨城県教育財団
- 赤井博之 佐々木義則 1996 「新治窓跡群環須恵器AⅠの変化－消費地の様相－」『要良岐考古』第18号 要良岐考古同人会
- 赤井博之 1998 「古代常陸国新治窓跡群の基礎的研究(1)～奈良・平安時代の須恵器編年を中心に～」『要良岐考古』第20号 要良岐考古同人会
- 齊藤 洋 新垣清貴 2005 「大沼町遺跡－グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」水戸市文化財調査報告第3集
- 佐々木藤雄 関口慶久 大橋生林 邦夫 2006 「大沼町遺跡(第3地点)－市道浜田207号複相調新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」水戸市埋蔵文化財調査報告第7集
- 佐々木義則 2007 「常陸型甕の生産と流通－奈良時代以前の様相－」『要良岐考古』第29号 要良岐考古同人会
- 小川和博 大河淳志 川口武彦 2008 「大車遺跡(第7地点)－介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－」水戸市埋蔵文化財調査報告第14集
- 木本孝周 深美賢吾 関口慶久 株式会社京都科学
- 川口武彦 色川順子 深美賢吾 片平雅俊 2008 「元石川大谷原遺跡－宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」水戸市埋蔵文化財調査報告第18集
- 日沖剛史 石丸政志 新垣清貴 2008 「薄内遺跡(第1地点)－移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」水戸市埋蔵文化財調査報告第20集
- 深美賢吾 川口武彦 色川順子
- 小林達雄編 2008 「総覧 縄文土器－小林達雄先生古稀記念企画－」アム・プロモーション

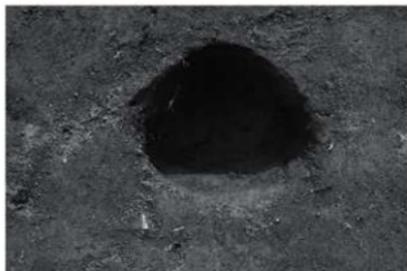
写 真 图 版



調査区全景 (南より)



1号ピット完掘状況 (東より)



2号ピット完掘状況 (東より)



調査区を望む (南より)



1号竪穴建物跡完掘状況（南より）



1号竪穴建物跡遺物出土状況（1）（南より）



1号竪穴建物跡遺物出土状況(2)(南より)



1号竪穴建物跡遺物出土状況(3)(南より)



1号竪穴建物跡カマド発掘状況(南より)



1号竪穴建物跡土層断面(東より)



基本層序(東より)



基本層序(南より)



埋め戻し状況(南より)



作業風景(北より)

图版 4



出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	すわまえいせき (だいにちてん)							
書名	諏訪前遺跡 (第2地点)							
図書名	産業廃棄物中間処理施設建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第64集							
編集者名	岩崎 岳彦							
著者名	岩崎 岳彦 米田 暢敬							
編集機関	水戸市教育委員会							
所在地	〒310-8610 茨城県水戸市笠原町978-5 ☎029-306-8132							
発行年月日	2014 (平成26) 年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 + ° ′ ″	東経 + ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
すわまえいせき 諏訪前遺跡	みとしちねぼまらあひおやほ 水戸市大場町字小山 びんら 443番地7、大場町字 すわまえいせき 諏訪前452番地1	08201	244	36° 19′ 54″	140° 31′ 19″	2014.6.10 ～ 2014.6.30	175.5 m ²	産業廃棄物中間処理施設建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
諏訪前遺跡	集落跡	縄文時代 古代	なし	土器、石器 須恵器、土師器	今回の調査では、1軒の竪穴建物跡及び2基のピットが確認された。出土遺物は土師器を中心に坏、壺、須恵器坏、甕などが確認されている。遺物の形状等から7世紀末から8世紀前半の所産と見られる。竪穴建物跡は八つ手状の台地の突端部に位置し、単独での検出のため性格の解明が難しく、周辺の調査の進展が待たれる。			
項 目	遺 物 の 取 り 扱 い							
水 洗 い	・すべて行った。							
注 記	・インクジェットプリンターによる。遺跡番号・地点名・遺構名・遺物番号・取上げ日の順に注記した。 例) 201244-022・S101・No 1 20140607							
接 合	・必要に応じて最小限行った。							
実 測	・遺物実測図は報告書掲載分についてのみ作成した。							
台 帳	・遺物台帳、図面台帳、写真台帳があり、検索が可能のように作成している。合計1冊(綴り)。							
遺物保管方法	・出土遺物は、報告書使用と未使用に分け、遺物取納箱に納めた。各箱には取納内容を明記している。なお、未使用分については種別ごとに分類、取納してある。							

水戸市埋蔵文化財調査報告

第1集	台渡里廃寺跡—範囲確認調査報告書—	2005年3月発行
第2集	台渡里廃寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)—	2005年4月発行
第3集	大鋸町遺跡 —グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2005年8月発行
第4集	台渡里廃寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)—	2006年3月発行
第5集	台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2006年3月発行
第6集	吉田古墳Ⅰ—史跡整備計画に伴う吉田古墳群第3次調査報告書—	2006年3月発行
第7集	大鋸町遺跡(第3地点) —市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2006年3月発行
第8集	環遺跡(第3地点) —ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第9集	環遺跡(第4地点) —ブランタンコリヌスⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第10集	吉田古墳Ⅱ —史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告書—	2007年3月発行
第11集	平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2007年3月発行
第12集	アラヤ遺跡(第2地点) —市道常磐10号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第13集	米沢町遺跡(第5地点) —住宅展示場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第14集	大串遺跡(第7地点) —介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年3月発行
第15集	台渡里遺跡(第39次調査) —公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年3月発行
第16集	渡里町遺跡(第5地点) —市道常磐31号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年6月発行
第17集	渡里町遺跡(第6地点) —市道常磐34、275号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年6月発行
第18集	薄内遺跡—移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年8月発行
第19集	堀遺跡(第9地点)—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年9月発行
第20集	元石川大谷原遺跡—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年12月発行
第21集	台渡里1—平成18年度長者山地区範囲確認調査概報—	2009年3月発行
第22集	平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2009年3月発行
第23集	吉田古墳Ⅲ —史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第4・5次発掘調査報告書—	2009年3月発行
第24集	町村遺跡(第1地点)—共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第25集	東組遺跡(第1地点)—物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行

第26集	荷鞍坂遺跡（第1地点） —コンビニエンスストア建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第27集	大銀町遺跡（第8地点）—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第28集	雁沢遺跡（第1地点）—工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第29集	渡里町遺跡（第7地点） —市道常磐23、31、307号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年6月発行
第30集	台渡里2 —市道常磐283号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第51次）—	2009年6月発行
第31集	若林遺跡（第1地点）—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年8月発行
第32集	堀遺跡（第16地点第1次調査） —市道渡里48号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（1）—	2009年10月発行
第33集	堀遺跡（第18地点） —市道渡里31、41号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年11月発行
第34集	堀遺跡（第17地点） —市道渡里35号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年12月発行
水戸城跡	三の丸土塁および堀の復旧作業に伴う工事・調査報告書	2006年9月発行

水戸市埋蔵文化財調査報告第64集

諏訪前遺跡

（第2地点）

—産業廃棄物中間処理施設建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

印刷 平成26年9月30日

発行 平成26年9月30日

編集 株式会社東京航業研究所

発行 水戸市教育委員会

平和建設株式会社

印刷 関東図書株式会社

〒336-0021

埼玉県さいたま市南区別所3-1-10

TEL 048-862-2901

